

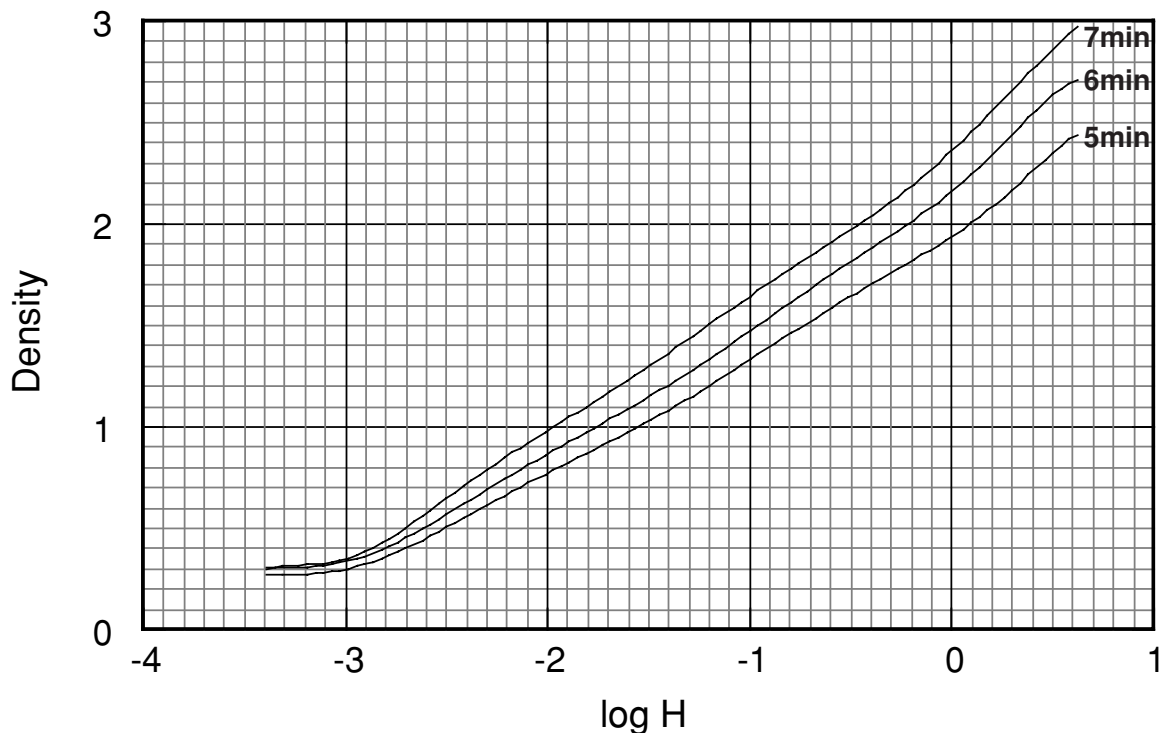
T-MAX 400 Professional + T-MAX Developer

立ち上がりが緩やかで、直線性が優れる、といった単乳剤層のフィルムの典型的特性を持っています。すなわち、シャドー部は軟調でハイライト部は肩部がないために硬調になります。国内で入手できるほとんどの印画紙(ハイライト部分が硬調でシャドー部分が軟調)と合わせると、シャドー部分が軟らかくなりすぎ、ハイライトは飛びすぎになります("T-MAX調"と私が呼ぶ独特のグラデーションです)。

このフィルムで自然な階調を得るためには、ハイライトが軟調でシャドー部分が硬いという特性の印画紙が必要で、国内では一部の印画紙しかありません。しかしその印画紙でも、ハイライトがどこまでも直線というT-MAX独特の特性のためか、あまり自然には再現できないようです。

TMXはTMX以上に直線性が良いため、増減感をしてでも(特にハイライト部の)階調はあまり変化しないでしょう。ただし、ハイライト部は、曲線が中間部よりもさらに立っているため、非常に硬調になってしまいうでしょう。

現像時間(分)	ISO相当感度	Contrast Index	平均階調度(G)
5	450	0.54	0.59
6	529	0.60	0.66
7	607	0.67	0.74



T-MAX 400 with T-MAX Developer(1:4)